

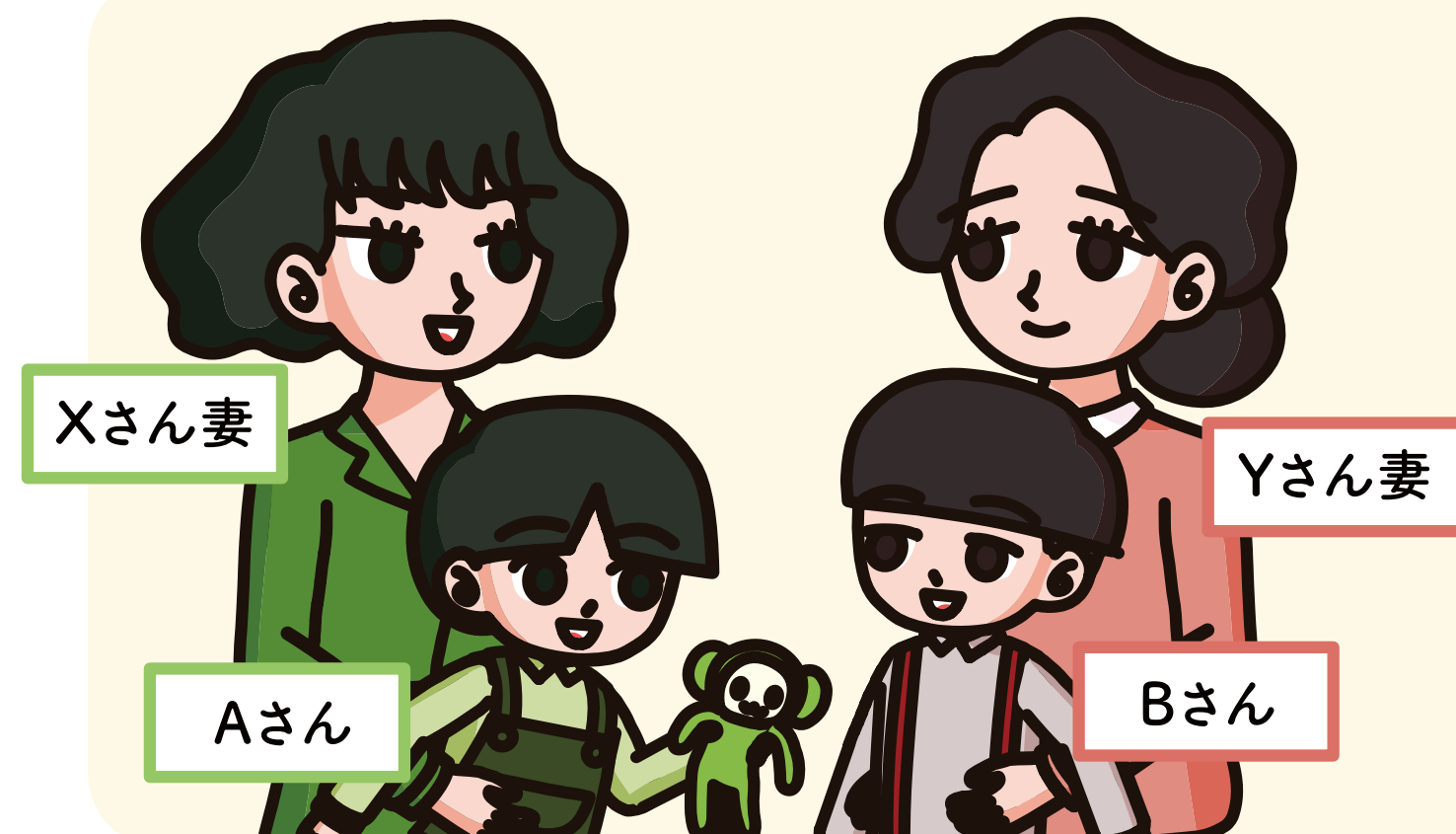
事後学習補助資料（目次）

「隣人訴訟」

- 1 隣人訴訟について
- 2 裁判・判決内容
- 3 まとめ

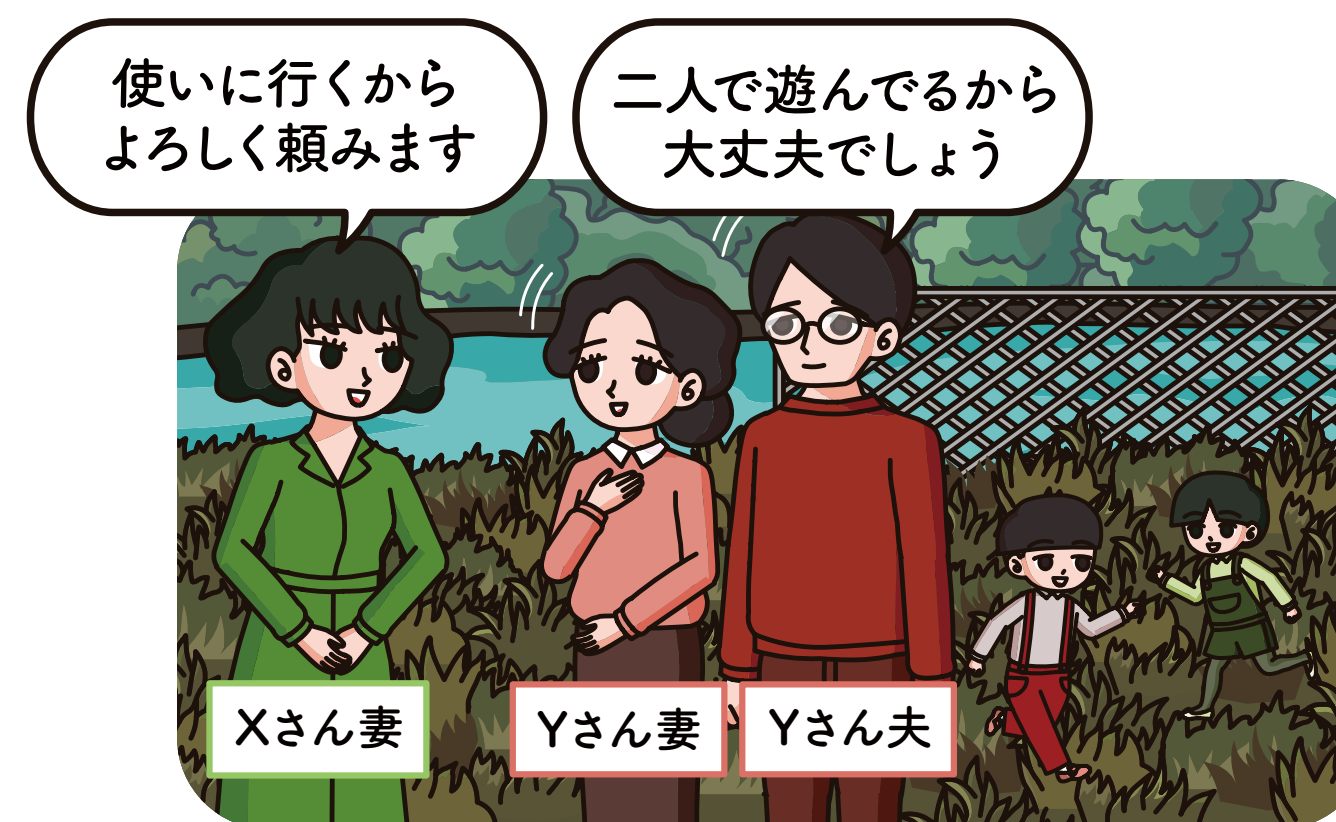


「隣人訴訟」とは



Xさん妻が買い物に行くあいだ、仲の良いYさん夫婦にXさん夫婦の子供（Aさん、当時3歳）を預けたところ、Aさんが水難事故で亡くなってしまったために起きた民事訴訟事件とこれに関連する一連の事態

預けられたYさん夫婦は、Aさんを自分の子ども（Bさん、当時4歳）と遊ばせ、目を離していた。すると、Bさんだけが帰宅し「Aさんが泳ぐと言って池に潜り帰ってこない」などと告げられる。急いで近所の人たちと近所の農業用溜池の中を探したところ、水際から5mから6m、水深3mから4mほどのところに沈んでいるAさんを発見した。Aさんは病院へ搬送されたが死亡が確認された。



2 | 裁判・判決内容

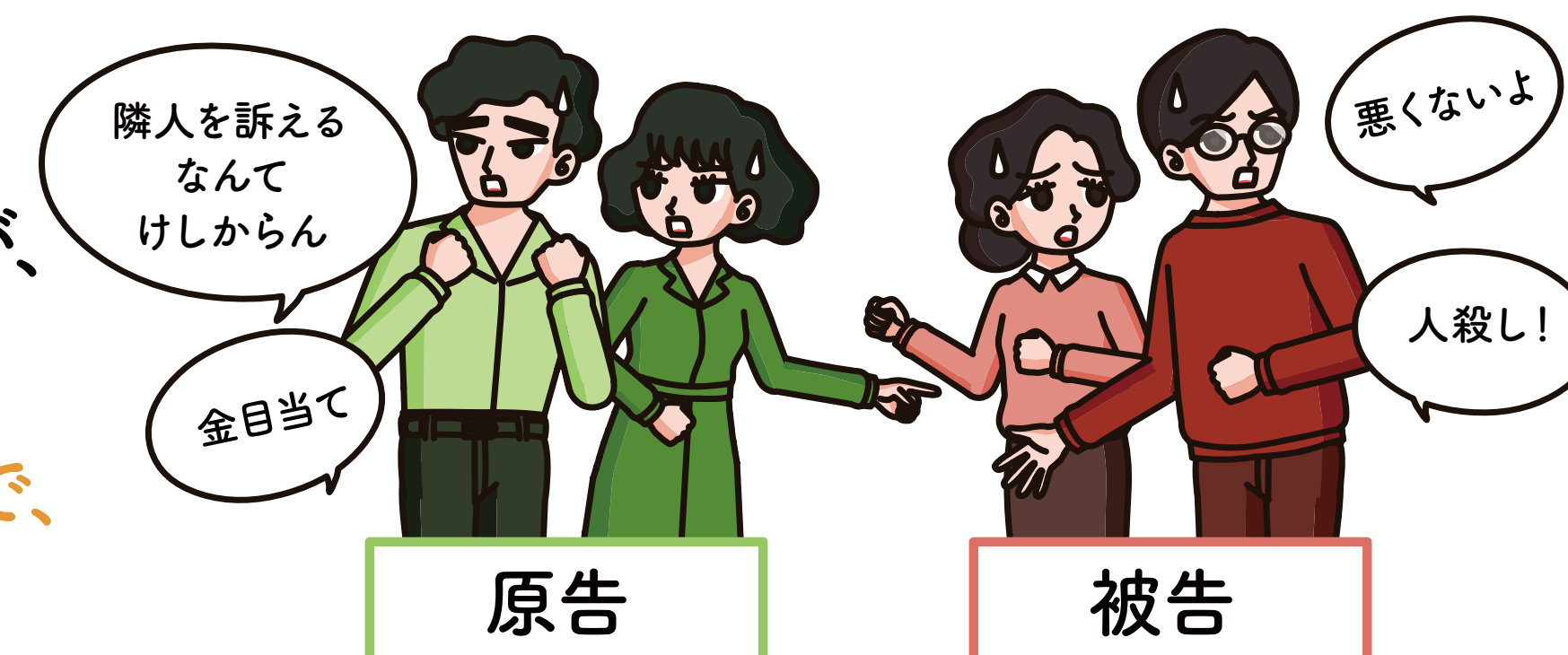
Xさん夫婦はYさん夫婦らを被告として、損害賠償請求訴訟を提起した。

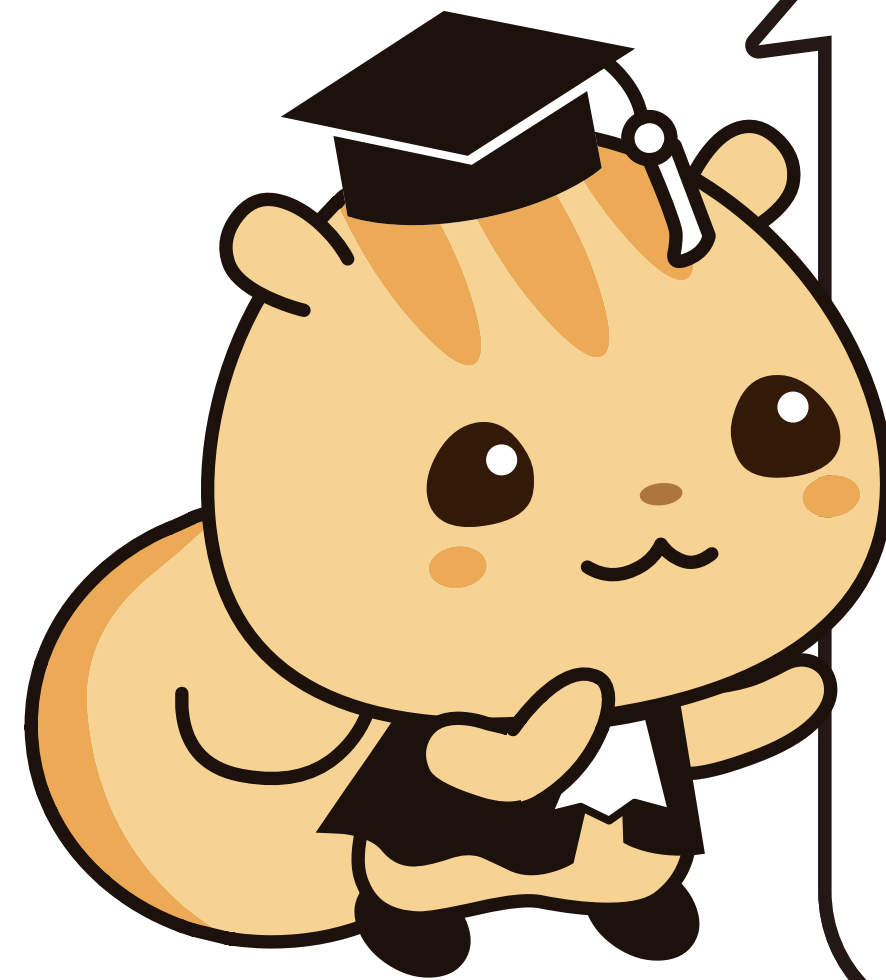
請求額は合計約2,800万円。



判決内容

裁判では、Yさん夫婦の責任が一部認められ、約500万円の支払いを命じる判決が出た。Yさん夫婦はこれに控訴し、さらに争うつもりだったが、世間からXさん夫婦Yさん夫婦双方に誹謗中傷や嫌がらせが相次いだ。その結果、Xさん夫婦が訴えを取り下げ、Yさん夫婦もこれに同意したので、訴訟自体が初めからなかったこととなった。





当時の日本では、
隣人同士が司法の場で争うことなどに
反発が強かったんだね。
でも、裁判を受ける権利（憲法第32条）は、
法的救済を求めるために誰しも持っているもの。
これを妨げることは誰にもできないんだ！

日本国憲法第32条 何人も、裁判所において裁判を受ける権利を奪はれない。